

タイ国の植物誌に関する文献調査報告

宮内 泰之(園芸文化研究所長)

2003年3月、2005年3月の2度、恵泉女学園大学のタイワークキャンプに学生の引率として参加し、北タイの山岳地帯に行く機会に恵まれた。現地では片手間ではあるが野生植物の観察を若干行った。その際、どの仲間に属する植物なのか見当がつかないものも多くあったが、科や属等のレベルまでわかる植物も多くあった。しかし、種を確定できるものは非常に少なく、検索表が掲載された図鑑等の必要性を痛感した。そこで本報告では、タイ国の野生植物全般あるいはある程度まとまった分類群を扱っており、観察に有効と思われる植物誌や論文、一般向けの植物図鑑等の文献のうち、これまでに収集したものについてその概要を述べる。

タイ国の植物相に関する調査研究は、インド、インドシナ、マレー半島などの周辺地域よりも比較的遅れていた。もともと未開発地域も多かったことや、熱帯林の多様性が調査研究を遅らせていた要因として考えられる。また、周辺諸地域がイギリス、フランスなどの保護領となっていたのに対して、タイ国が独立を保持していたこととも関係しているようである。20世紀半ばには、イギリス人のW.G.CraibとA.F.G.Kerrらによって『*Florae Siamensis Enumeratio*』(全3巻1925-1962)がタイ国初の包括的な植物誌として刊行された(ただし、単子葉植物や裸子植物は未刊)。20世紀半ば以降には、デンマーク、オランダ、そして日本の研究者らも調査を行い、タイ国の植物相の解明に尽力した。そして、1979年から2002年にかけて、バンコクのForest Herbariumから『*Flora of Thailand*』全7巻21分冊が刊行された(ただし、概論的な内容の1巻はまだ刊行されてい

ない)、この時点でのタイ国の維管束植物相ほぼ全体の調査研究成果が明らかにされた。‘*Flora of Thailand*’は一つ一つの種類に詳しい解説がなされ、多くはないが主だった種については花・果実・葉などの図版があり、また、すべての種の検索表が掲載されている。これによりタイ国の植物観察や同定作業が大幅に容易になったといえる。しかし、同国のフロラについては、未知の部分も多く、新種の追加は今後もなされていくはずである。また、一般を対象にした図鑑等についてはまだ非常に少ない。今後、検索表や分布状況などがタイ語はもちろん英語で書かれており、フィールドでも使用可能な鮮明な図鑑等の出版が望まれる。

(論文)

「タイ国植物調査小史」

岩槻邦男・福岡誠行. 1967. 東南アジア研究 4 (5) : 172-179. 京都大学東南アジア研究所.

植物相の目録ではないが、タイ国における植物誌の調査研究の歴史をまとめている。18世紀後半にタイ国の植物誌の研究が始まり、19世紀から20世紀にかけて主にイギリス人やKew 標本館で研究、植物誌の編纂が進められ、‘*Flora of Thailand Project*’ 発足前夜までの状況が書かれている。

「タイ国のシダ植物」

岩槻邦男. 1969. 東南アジア研究 6 (4) : 257-179. 京都大学東南アジア研究所.

1967年の‘タイ・マレーシア生物相の調査’等による成果と、タイ国内で未研究の標本を検討した結果が報告されている。目録はないが、タイ国内でのシダ植物の分布状況や生活型が解説されている。

「東南アジアの植物地理，スイカズラ科の分布を中心にして」

福岡誠行. 1969. 東南アジア研究 6 (4) : 272-285. 京都大学東南ア

ジア研究所.

1967年の‘タイ・マレーシア生物相の調査’等に基づき、東南アジアの植物相の概観、植物区系・区分、移住と分化、温帯と熱帯・亜熱帯高地気候下の生活様式の違いについて、スイカズラ科植物の分布を中心に述べられている。

「タイ国のしだ植物相と植物地理」

岩槻邦男. 1969. 東南アジア研究 13 (2) : 282-294. 京都大学東南アジア研究所.

タイ国のシダ植物について北タイ、南タイ、高地、低地等それぞれの地理区分ごとに代表的な種名をあげながらタイ国の植物地理を概観している。

Contributions to the Flora of Southeast Asia I-VI. Center for Southeast Asia Studies Kyoto University.

京都大学東南アジアセンターによるタイとマラヤへの2度の学術調査(1965-1966、1967)に基づく報告。全6報。各報に特定の分類群をテーマとしている。種の検索表と、種ごとに原記載、形態的解説、分布、生育環境、証拠標本等の情報が記載されている。

I. Tem Smitinand · Tatemi Shimizu · Hiroshige Koyama · Nobuyuki Fukuoka. 1970. *The Southeast Asia Studies* 8 (2) : 171-186.

温帯性植物。

II. Tatemi Shimizu. 1970. *The Southeast Asia Studies* 8 (2) : 187-217.

ツリフネソウ属。

III. Nobuyuki Fukuoka. 1970. *The Southeast Asia Studies* 8 (3) : 305-336.

アカネ科

IV. Gen Murata. 1971. *The Southeast Asia Studies* 8 (4) : 489-517.

シソ科

V. Jisaburo Ohwi. 1971. *The Southeast Asia Studies* 9 (2) : 194-219.

イネ科、カヤツリグサ科

VI. Gen Murata. 1976. *The Southeast Asia Studies* 14 (2) : 177-193.
シソ科の追加。

A Preliminary Check List of the Pteridophytes and Dicotyledons of Doi Inthanon in Thailand

Hiroshige Koyama. 1986. Department of Botany. Faculty of Science. Kyoto University.

タイ国最高峰(標高 2,565m)の Doi Inthanon におけるシダ植物と双子葉植物の目録。種ごとに原記載、証拠標本や比較標本、分布、生育地点の高度や植生等の情報が記されている。Symlocaceae (ハイノキ科)、Tiliaceae (シナノキ科)には検索表が、Tiliaceae の主な種には図版が掲載されている。巻末には毎木調査、ベルトトランセクトの資料が添付されている。

A Preliminary Check List of Spermatophytes of Doi Inthanon in Thailand I

Hiroshige Koyama · Nobuyuki Fukuoka. 1990. Shoei Jr. Coll. Ann. Rep. Stud. Vol.22 : 293-323. Kobe.

Doi Inthanon における裸子植物の全科と単子葉植物の Agavaceae (リュウゼツラン科)から Eriocaulaceae (ホシクサ科)まで(科の配列はアルファベット順)の目録。種ごとに原記載、証拠標本や比較標本、生育地点の高度や植生等の情報が記されている。

The Floristic Composition of Tropical Montane Forest in Doi Inthanon National Park, Northern Thailand, with Special Reference to Its Phytogeographical Relation with Montane Forests in Tropical Asia

Masatoshi Hara · Mamoru Kanzaki · Takeshi Mizuno · Hideyuki Noguchi · Kriangsak Sri-Ngernyuang · Sakhan Teejuntuk · Chettha Sungpalee · Tatsuhiro Ohkubo · Takuo Yamakura · Pongsak Sahunalu · Pricha Dhanmanonda ·

Sarayudh Bunyavejchewin. 2002. *Natural History Research*7(1) : 1-17.
Natural History Museum and Institute. Chiba.

Doi Inthanon 中腹 (標高 1,700m) の熱帯山地林に設置した調査区の毎木調査データに基づく、森林の種組成の報告。周辺地域との植物地理学的関連性についても言及している。付表として、調査区内の植物相目録が掲載されている。

(書籍)

Flora of Thailand Vol.1-7

The Forest Herbarium. 1979-2002. Royal Forest Department. Bangkok.

タイ、イギリス、デンマーク、オランダ、日本共同の生物調査による 'Flora of Thailand Project' が1958年に発足した。'Flora of Thailand' は同プロジェクトの調査研究成果に基づき編集されている。全7巻21分冊のうち、概論的な内容の1巻は未刊、2巻は情報のみで未刊行、3巻1号が1979年に刊行され、2002年に7巻4号が刊行されて一旦完結となっている。タイ国内に生育する全科の維管束植物が網羅され、その種類数は11,000以上。種の検索表、原記載、形態、タイプ標本、重複標本、国内分布、世界的分布、生育環境、タイ語名などの情報が詳細に記載されている。また、数は少ないが主な種の細密画図版がある。ペーパーバック、B5判。

Flowering Plants of Thailand, A Field Guide

Patrick D.McMakin. 1988. White Lotus. Bangkok.

庭園の植物、野生植物(生育環境別)、熱帯果樹等の項目ごとに、写真図版入りで500種程度が掲載されている。種ごとに、学名、原産地または分布、形態等の解説が記載されている。検索表はない。ハードカバー、A5判、141pp.

Noteworthy Ferns of Thailand

Thaweesakdi Boonkerd. 1996. Chulalongkorn University Press. Bangkok.

CD-ROM。120種のシダ植物を扱っている。

A Field Guide to Forest Trees of Northern Thailand

Simon Gardner · Pindar Sidisunthorn · Vilaiwan Anusarnsunthorn. 2000. CMU Herbarium. Biology Department. Science Faculty. Chiang Mai University. Chiang Mai.

北タイに野生する樹木のフィールド図鑑。430種については詳細な解説(学名、形態、分布、生育環境、利用、類似種等)があり、その他に450種以上が掲載され、北タイの全野生樹木の75%を網羅している。科、属、種の検索表、専門用語の解説、北タイの植生の解説など、一般の読者にもわかりやすく書かれている。細部の写真も豊富。ペーパーバック、A5判、545pp.

Trees and Fruits of Southeast Asia

Michael Jensen. 2001. All Illustrated Field Guide. Orchid Press. Bangkok.

東南アジアで見られる野生樹木と果樹を100種ほど掲載。熱帯産のものが多い。葉による検索表。イラスト図版は細部がやや粗い。学名、生育環境、分布、利用、引用文献などの情報が書かれている。ペーパーバック、23.5 × 12.5cm、234pp.

A Field Guide to the Wild Orchids of Thailand

Nantiya Vaddhanaphuti. 2001. Silkworm Books. Chiang Mai.

タイに生育する464種のラン科植物の図鑑。検索表無し。花の写真と、学名、分布、花の形態、花期などの簡単な情報が記載されている。ペーパーバック、A5判、216pp.